

# 持続可能な交通体系を目指して



## 第6回(最終回) 計画の目標

問い合わせ先／  
交通政策課 ☎ 22-6600 内線 382

「第2次気仙沼市総合交通計画」の内容について、市広報2月号から5回にわたりお知らせしてきました。最終回となる今回は計画期間中の目標についてお知らせします。

### (1) 公共交通空白地域の解消

交通に関する市民意向調査では、住宅からバスなどの停留所までの距離が遠く公共交通の利用が困難であることや高齢化に伴う免許返納時の交通手段に関する不安の声が多く寄せられています。このことを踏まえ、より市民生活に有益な交通体系となるようにデマンド交通（予約制乗合タクシー）の導入などにより、公共交通空白地域の解消を目指します。

本市では、令和3年度までに患者輸送バスへの一般乗客混乗実験などに取り組みましたが、新たな交通形態の導入検討をさらに推進します。

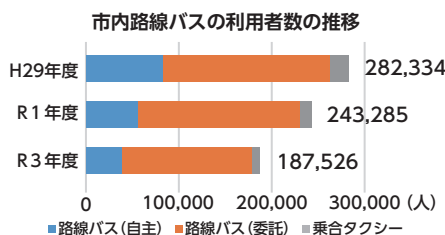


#### 【検証・評価の視点】デマンド交通などの実証運行の実施数

令和3年度まで 2地区 ➡ 令和8年度まで 5地区

### (2) 公共交通の利用促進

令和3年度の市内路線バスの利用者数は18万8千人で、平成29年度と比較して約10万人減少しています。1日当たりの利用者数は513人で、本市の人口に対する1日の利用者の割合は0.86%となっています。利用促進に関する施策を推進することで、この割合を1.0%に引き上げることを目指します（令和8年度の人口が令和3年度と同じ59,662人と仮定した場合の1日当たりの利用目標者数は596人となります）。

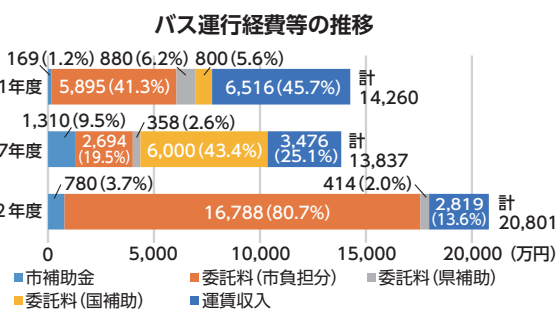


#### 【検証・評価の視点】本市の人口に対する1日当たりのバス利用者の割合

令和3年度 0.86% ➡ 令和8年度 1.0%

### (3) バス運行に係る本市負担額の削減

バスなどの運行に係る本市の負担額は、市内循環バスの運行開始や赤字路線の市委託化などにより増加しており、震災前の平成21年度が約6,100万円に対し、令和3年度は約1億7,600万円で大幅に増加しています。生活を支える移動手段として持続可能なものとするためには、一定程度の利便性を確保しつつ、運行の効率化による負担削減が必要です。他自治体における公共交通に関する支出額などを目安に負担軽減に取り組みます。



#### 公共交通に係る 住民一人当たりの 支出状況の比較

	気仙沼市	A市	B市	C市	D市	E町
令和2年国勢調査人口(人)	61,147	約110万	約14万	約11万	約3.5万	約1万
公共交通に係る支出(万円)	17,568	1,113,886	20,131	22,427	7,310	6,055
住民一人当たり支出(円)	2,873	4,256	1,436	2,004	2,104	4,953

※A市はバスに限った数値。地下鉄を含むと一人当たり支出は10,156円。

#### 【検証・指標の視点】バス運行に係る本市負担額

令和3年度 約1億7,600万円 ➡ 令和8年度 1億3,000万円

※本計画の目標および検証・評価については、上記のほか、公共交通の関心度、満足度や、鉄道や高速バスなどの都市間交通の利用者についての指標を定めています。

今後、本計画に基づき、持続可能で市民生活に有益な公共交通の仕組みづくりに向け、各種施策を推進してまいります。皆様のご理解とご協力をお願いします。